

令和4年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	2	履修学年	2	学科・コース	文型選択																					
教科書	詳説日本史（山川出版社）		副教材等	最新日本史図表（第一学習社） 日本史重要語句Check List2023（啓隆社）			担当者	干場																						
1. 科目の目標			2. 学習の進め方や留意点				3. 評価の観点と函中コンピテンシー																							
<p>(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>			<p>〈学習の進め方〉</p> <p>(1) 教科書の内容を理解し、説明できることを目標とする。そのため、授業では日本史の理解をはかるために内容の説明と確認を行うとともに、史料を理解する方法についても説明を行う。</p> <p>(2) 日常の小テストにより基礎的な知識の定着をはかる。</p> <p>〈留意点〉</p> <p>(1) 1年次履修の「歴史総合」との関連を意識しながら学習に取り組むこと。</p> <p>(2) 現在の日本や諸外国との関係も意識しながら理解するよう心がけること。</p> <p>(3) 歴史用語の理解にとどまらず、歴史的事象の因果関係や時代背景にも意識して学習を進めること。</p>				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>主体的な態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>傾聴力</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>思考力</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>協働力</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>先見力</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度	傾聴力	○		○	思考力	○	○		協働力		○	○	先見力		○	
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な態度																											
傾聴力	○		○																											
思考力	○	○																												
協働力		○	○																											
先見力		○																												

4. 学習計画と評価規準

月	単元・学習内容	時間	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	第11章 近世から近代へ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯等を理解することができる。 ・政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習を主体的に振り返る時間を設け、知識の定着に努めることができる。 ・定期的に学習状況を振り返り、改善に努めることができる。
5	第12章 近代国家の成立	6	<ul style="list-style-type: none"> ・明治政府による中央集権化の諸改革と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取り理解することができる。 ・諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・国内体制を欧米の水準に合わせる事が改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	
6	第13章 近代国家の展開	5	<ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満州への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解することができる。 ・第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から情報を読み取り、理解することができる。 ・ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議会在戦争を支持する一方で、反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現することができる。 ・大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	
	【前期中間考査】	1	【評価方法】 前期中間考査	【評価方法】 前期中間考査 ワークシート	【評価方法】 小テスト 振り返りシート
7	第14章 近代の産業と生活	4	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出した事を理解することができる。 ・国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究、欧米の科学技術の導入、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現することができる。 ・都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習を主体的に振り返る時間を設け、知識の定着に努めることができる。 ・定期的に学習状況を振り返り、改善に努めることができる。
8	第15章 恐慌と第二次世界	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	
		2	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政治の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解することができる。 ・政治・経済体制の変化に着目して、満州事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現することができる。 ・当時の社会が抱えた矛盾と満州事変などの対 	

9	【前期期末考査】	4	<ul style="list-style-type: none"> に際しての世論や軍部の反動に起因する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解することができる。 ・戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸侯との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の社会が抱える矛盾と、開戦前後の対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察 	
		1	【評価方法】	【評価方法】	【評価方法】
		【12】	前期期末考査 単元テスト	前期期末考査 単元テスト ワークシート	小テスト 振り返りシート
10	第16章 占領下の日本	5	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解することができる。 ・占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・地域社会の変容にも留意しながら、線量の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習を主体的に振り返る時間を設け、知識の定着に努めることができる。 ・定期的に学習状況を振り返り、改善に努めることができる。
11	第17章 高度成長の時代 第18章 激動する世界と日本	5	<ul style="list-style-type: none"> ・保守合同による自由民主主義の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解することができる。 ・冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から読み取ることができる。 ・ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解することができる。 ・冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解することがで 	<ul style="list-style-type: none"> ・日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安条約・L T貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現することができる。 ・日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現することができる。 ・国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現することができる。 	
		1	【評価方法】	【評価方法】	【評価方法】
	【後期中間考査】	【15】	後期中間考査	後期中間考査 ワークシート	小テスト 振り返りシート
12	第1章 日本文化のあけぼの	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解することができる。 ・日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解することができる。 ・水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技術を身につけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現することができる。 ・小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現することができる。 	
1	第2章 古墳とヤマト政権	4	<ul style="list-style-type: none"> ・国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解することができる。 ・推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学習を主体的に振り返る時間を設け、知識の定着に努めることができる。 ・定期的に学習状況を振り返り、改善に努めることができる。
		1	【評価方法】	【評価方法】	【評価方法】
	【学年末考査】	【11】	学年末考査	学年末考査 ワークシート	小テスト 振り返りシート
2	第3章 律令国家の形成	4	<ul style="list-style-type: none"> ・隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解することができる。 ・平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現することができる。 ・文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現することができる。 ・盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。 ・蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察し、根 	
3		2	<ul style="list-style-type: none"> ・隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解することができる。 ・東アジアとの関係の変化や社会の変化と文化との関係などに着目して、平安遷都前後の諸 		
	【学年末考査】	1	【評価方法】	【評価方法】	【評価方法】
	【学年末考査】	【11】	学年末考査	学年末考査 ワークシート	小テスト 振り返りシート
	合計	54			